

1 全国学力・学習状況調査

小・中共通

項目	結果考察(良い点)	課題	解決の方向性
国語	<p>・国語A 平均正答率73.3%、国・県を上回っている。</p> <p>・国語Aの観点別の結果を見ると、「言語についての知識・理解・技能」の正答率が79.1%と高い。</p> <p>・「書くこと」の正答率が、89.3%と高い。</p>	<p>・読み取りの問題での無解答率が高い。</p> <p>・漢字の定着率は高いものの、いくつか定着が悪い漢字がある。問題番号12「浴びる」を書く正答率(59.8%)が平均を下げている。</p> <p>・主語を捉えたり漢字を読み書きしたりする問題で正答率が低いものがある。</p> <p>・国語A設問番号5の一、二、「新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える」の正答率がかなり低く、筆者の考えを読み取ったり、引用している言葉を書き抜いたりすることが、できていないことがわかる。</p>	<p>○基礎基本的な内容の定着を図る工夫を行う。</p> <p>・漢字の学習は繰り返し指導を行い、確実な定着を図る。</p> <p>・主語と述語など文の構成を理解する指導の充実を図る。</p> <p>○読む能力を伸ばす指導の工夫を行う。</p> <p>・説明文の読み取りの指導方法の工夫を図る。</p> <p>・目的に応じて適切に引用する指導の充実を図る。</p> <p>・文章の内容を適切に読み取り、事実と感想、意見等との関係を押さえ、要旨を捉えることができるように指導の工夫を図る。</p>
	<p>国語B正答率70.1%</p> <p>・問題番号2のすべての問題が良くできていて、目的に応じて、「中心となる語や文を捉えること」、「文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えること」ができています。</p> <p>・国語B正答率がH26年度61.1%、H27年度70.1%と11%上がっている。全国や県と比較しても高くなっている。領域別にみると「書くこと」(+24.2)「読むこと」(+10.2)という結果である。「書くこと」については、全学年の課題として、力を入れて指導に取り組んできた成果と考えられる。</p>	<p>・図を基にして自分の考えを書くこと、取材した内容を記事に書くことが十分ではない。(46.4%)</p>	<p>○書く活動の工夫</p> <p>・文章と図やグラフなどと関係付けて、自分の考えをまとめる指導の工夫、充実を図る。</p> <p>・説明的な文章を書く時、図やグラフなどを効果的に用いることができるように指導の工夫を図る。</p>
算数	<p>算数A</p> <p>・平均正答率76.6%と国・県を上回っている。</p> <p>・計算問題の正答率が高い。</p>	<p>・算数A</p> <p>・量と測定、図形の分野は全国を下回っている。</p> <p>・小数、時刻、分数の計算、円、立体についての理解が十分ではない。分度器の使い方も58.0と低い。</p> <p>・グラフの読み取りが全国より低い。</p>	<p>○基礎基本的な内容の定着を図る工夫を行う。</p> <p>・計算の結果を見積もり、計算の仕方を考え、結果を振り返って確かめる活動の充実を図る。</p> <p>・算数学習コーナー等の活用していつでも振り返られる環境をつくる。</p> <p>○図形についての指導の工夫を行う。</p> <p>・正答率の低い「図形」三角形、平行四辺形の定義や性質は、繰り返し指導して定着を図る。</p> <p>○量と測定についての指導の工夫を行う。</p> <p>・日常生活の事象の解決に単位量当たりの大</p>
	<p>算数B</p> <p>平均正答率50.3%、すべての領域で全国や県を上回っている。</p>	<p>算数B</p> <p>・理由を説明する問題の正答率が低い。</p> <p>・算数Bでは、記述式の問題の正答率が低い。</p> <p>・問題番号2(2)「示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる」問題の正答率が17.0%と1番低く、「割合」の問題ができていない。</p>	<p>○数学的な考え方を育てる授業展開の工夫を行う。</p> <p>・「自分の考えを数学的に表現する問題」や「記述式」の問題にも対応できるよう、数学的な思考力・表現力を高める問題解決学習の工夫をしていく。</p> <p>○「割合」の指導の工夫を行う。</p> <p>・問題の状況をしっかり把握してその関係を図や数直線などに表して捉えられるように指導の工夫を行う。</p>

理科	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率61.8%は国・県を上回っている。 領域別に見て、どの領域も平均した正答率である。 設問番号1(1)の「振り子時計の調整の仕方を調べるための実験について、条件を制御しながら構想できる」の正答率84.8%と県、全国に比べて7~8%高くなっている。 「活用」に関する問題の正答率が、比較的高い結果となっている。評価の観点「科学的な思考・表現」の問題の正答率が比較的高いことから、見出した問題を解決するために実験を構想したり、実験結果から考察して分析したりする学習展開をしている成果と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 設問番号2(3)(4)の顕微鏡の名称や操作に関する問題の正答率が、40%台と低いが、題意がわからず誤答をしている。問題の内容が複雑になってくると、何について答えてよいかわからないようである。 月や方位の問題の正答率も低い。 問題をよく読まず、答えを書いてしまう傾向があり、初めて出会う問題に対しての思考が浅い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○器具の適切な扱い方を理解する指導の工夫を行う。 ・実験の技能については、実際に操作する時間を十分に確保し、教科書等で確認し理解を図っていく。 ・顕微鏡に関する問題は、「知識」に関する問題で、分かっている児童は多いので、問題をしっかり読み、何を答えればよいかを熟考させるようにする。 ・知識が定着するまで繰り返し指導したり、操作させたりしていく。 ○方位を捉えながら月や星を観察する指導の工夫を行う。 ・方位磁針の適切な扱い方を確認し、日常において方位を意識できるように指導の工夫をする。 ・月や星の観察の観点を明らかにし、観察する機会をおく持ち関心を高める工夫を行う。
質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> 質問番号(7)(8)「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」の質問に、「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した児童は54.0%、98.1%と県や全国と比較して高い割合である。学校課題研究で「相手の思いを受け止め、自分の思いを伝えられる子の育成」に取り組んできた成果と考えられる。今後も継続して指導していく。 質問番号(38)「5年生までに受けた授業で自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」という質問に、「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した児童が93.7%と高い。 質問番号(62)「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」82.0%(65)算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」80.1%(66)算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」81.9%とそれぞれ高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」は62.1%と低い。 家庭で宿題をしている割合は、99.1と県や国より高いが、予習や復習をしている児童の割合が、県より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○より意欲的に学習に取り組める授業の工夫を行う。 ・日常生活と結びつけた活用問題を意図的にとり入れる。 ・算数の知識や技能、数学的な考え方を活用する学習や経験を多くする。 ○家庭学習の指導を行う。 ・家庭学習の取り組ませ方の工夫を行う。 ・家庭と連携して家庭学習の充実を図っていく。

2 埼玉県学力・学習状況調査

小学校

項目	結果考察(良い点)	課題	解決の方向性
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 全項目で県・市平均を上回っている。 言語についての正答率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「書く」の正答率が低い。(県・市平均よりは上回っている)。段落構成の理解に課題が見られる。 無答が多いことから、文章を書くこと自体に苦手意識をもっている児童が多いことが窺える。 ・説明文に関する問題での正答率が低い。論理的に文章を読み取る力に課題が見られる。 ・主語・述語に当たるものを選択するに課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章構成についての指導の徹底「初め・中・終わり」や双括型、頭括型、尾括型など ・文章の書き方を具体的に指導条件に応じた書き方のモデルを示し、書き方の見通しがもてるような手立てを講じる。 ・段落相互の関係が読み取れるように、指示語や接続語に着目した読解指導を行っていく。 ・低学年から日々の授業の中で、主語・述語を意識させおさえるようにする。一番短い文を意識させる。 ・初発の感想をどを大切に書かせる。 ・説明文など短い文からキーワードを意識させ、要約を繰り返し練習していく。 ・文法の指導の工夫

国語	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本が身に付いている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「書く」問題の正答率が37.4と低い。〔無回答率31.9〕 その他の問題において、正答率が高い反面、無回答率も高い。学力差が大きいこと、書いて間違えることに抵抗がある児童も多いことが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現する力の向上を目指す。 文章の書き方を具体的に指導条件に応じた書き方のモデルを示し、書き方の見通しがもてるような手立てを講じる。 書く場面を増やす。またそれを継続する。自主学習ノート(日記)の活用 課題を与え、練習させる。 問題文の読解力を高めるとともに、自分の考えを書いて発表する機会を多くして、慣れさせる。
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 全項目で県・市平均より上回っている。 漢字がよくできている。 無回答が少ない。 書く力が弱いガ、県、市の正答率と比べると10%以上高い結果である。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く力が弱い 言語関係で修飾と被修飾語の関係が苦手 物語文の読み取りが、県や市に比べて正答率が低い。 本文から書き抜くという問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内でミニテストを行う。 自主学習ノート(日記)の活用 課題を与え、練習させる。 300字程度の文章を書かせる。 視写させることで、文の構成を理解させる。 「書き抜く」という解答の仕方を指導する。
算数	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 全項目で県・市平均を上回っている。 数量関係での正答率が高い。 分数以外の計算技能は定着している。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な考え方に関する問題の正答率が低い。(5項目中4項目で6割未満) 分数の問題での正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算の仕方やその過程について、言葉や図を使って、説明する学習活動を意図的に設けていく。 分数での量や数の感覚を身に付けられるよう、具体物などを用いて体験的に学べるような学習活動を行っていく。 数学的な考え方に関するところが課題なので、低学年から算数的な活動など具体物を使った活動を多く取り入れていく。
	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 全項目で県・市平均を上回っている。 計算等の技能が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 面積や高さの量感、除法の性質についての理解がやや低い。 基礎基本は定着しつつあるが、数学的な考え方に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な量感を実感としてとらえられるように示す。 少人数指導(習熟度別学習)を効果的に活用し、ひとり一人の実態に応じた学習指導を行う場面を設定する。
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 全項目で県・市平均を上回っている。 基礎基本の計算問題ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 面積や体積を求める問題が低い。 帯グラフや円グラフの読みとりが低い。 面積の量感が身につけていない。 二つの量の関係を求めるのが苦手。 図形の合同についての理解が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 公式を使った計算を1問程度継続して行う。 他教科でグラフに触れる。 他教科で読みとる練習、自分達でグラフにまとめる学習を進める。 具体的な量感を実感としてとらえられるように示す 線分図を使って、二つの量の関係を理解させる。 基礎基本的な知識・理解の徹底
質問紙調査	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 「あなたは、勉強する理由について、どのように考えていますか。」での回答結果からも、勉強することの必要性を理解している様子が窺える。 前向きな気持ちで頑張っている子が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 塾で学校より進んだ学習をしている児童が39.1(+9.1)と多い。 就寝時刻が遅く、睡眠時間が少ない児童の割合が、高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 上位の児童をより伸ばす指導の工夫 習熟度別学習の効果的な活用 基本的な生活習慣の見直し
	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 「勉強が大切」と考えている子が多い。 勉強は「将来のため」と理解している子が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表する活動に苦手意識を持っている。 学習内容をふり返る活動が低い。 言語活動をふり返る意識が低い。 塾などで学校より進んだ学習をしている児童が40.2(+14.1)と半数以上いる。 就寝時刻が遅く、睡眠時間が少ない児童の割合が、高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動の充実 上位の児童をより伸ばす指導の工夫 習熟度別学習を取り入れ、下位の児童に丁寧な指導、上位の児童に思考・判断力を伸ばす指導 基本的な生活習慣の見直し

第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強が大切と思っ ている子が多い。 ・勉強する理由で高 いのは、「進学や就職 に役に立つ」である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語については、よくわかる児童の割合が県 に比べて低い。 ・埼玉県や今住んでいる市町村の歴史や自然 に関心を持っている児童の割合が県・市平均 に比べて低い。 ・塾等で学校より進んだ内容を学習している児 童が4割程度いる。 ・読書が好きな児童の割合は高いが、読書 をする時間は少ない傾向にある。 ・算数で授業の最後の振り返る活動が低い。 ・就寝時刻が遅く、睡眠時間が少ない児童の 割合が、高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語授業の工夫・改善 ・埼玉県の学習の充実 ・「授業で習ったことを振り返る」趣意説明を行 う。 ・習熟度別学習の充実 ・読書活動の推進 ・見通しと振り返りのある学習の推進 ・基本的な生活習慣の見直し
------	---	--	--

3 具体的な改善に向けた学校としての取組

- <教育課程編成上の工夫>
 - 年間指導計画の見直しをする。
 - ・本校児童の実態に合わせた年間指導計画の改善
 - 個に応じた指導の工夫を行う。
 - ・補充学習、発展学習などの教材開発
 - 読書活動の推進を行う。
 - ・いろは遊学図書館の活用及び読書タイムの充実
- <日々の授業の充実・指導内容、指導方法の工夫>
 - 見通しと振り返りのある授業を確実に実践する。
 - ・児童が主体的に学習できるように、授業の始めにめあてを提示する。また、授業の最後に振り返りの時間を設定する。
 - ・振り返りでは、分かったこと等を自分の言葉で書かせる。
 - 課題解決学習、問題解決学習の充実を図る。
 - ・自力解決の時間の確保を行い、一人一人が課題を解決できる力を養う。
 - ・自分の考えを筋道を立てて説明し、互いに意見交換ができるような言語活動を授業に取り入れる。
 - 「授業アイデア例」(国立教育政策研究所)の活用
 - 板書計画の工夫
 - ・めあてや思考の過程等が見える板書の工夫
 - ・自分の言葉で考えをノートにかけるといった指導を行う。
 - 教室掲示の工夫
 - ・学習コーナー等、振り返りや定着ができる環境作りを行う。
 - 「書く」力を伸ばす指導の工夫
 - ・授業時間中等に意図的に書く時間の確保を継続する。
- <評価の工夫・改善>
 - ・1時間の評価項目を1～2、設定して評価を行う。
 - ・B評価の規準を明確にする。C評価になる児童への手だて、A評価の児童へのさらなる課題の提示
 - ・自己評価カードの工夫及び相互評価の工夫
 - ・通知表の見直し、検討
- <家庭との連携>
 - 基本的な生活習慣の見直し
 - 家庭学習の工夫